

コロナの収束が見えないなか、医師―患者間の感染を防ぐことを目的に、診察室にビニールのシートを置くのがある。前にならっています。

なんとも味気ない光景ですが、医師が白衣を着るのも、患者から医師への感染を防ぐことが目的の一つです。侍医が天皇の診察をする際には白衣は着ないといひます。

なお、私の場合、白衣を着ることが少なくなりました。「白い巨塔」を思い出しますが、白衣は医師の権威を象徴するように思えるからです。実際、医者の診察のときだけ血圧が上がる「白衣高血圧」という病名もあります。医師と患者が対等な立場で情報を共有することが良いがん治療

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

私たちの体内には毎日多数のがん細胞が発生しています。がん細胞が水際で退治されてくれています。この「免疫監視機構」によって、私は患者のがんをもらうことはありませんが、私は膀胱（ぼうこう）がんと発症しました。私の膀胱がん細胞はもともと、私自身の正常な膀胱の細胞が不死化したものです。私の免

国立がん研究センターなどのチームが確認し、先月、米医学誌に発表しました。

疫細胞にとっては異物と認識できなかつたわけです。しかし、がんが別の人に移る例外的な事例もあります。母親の子宮頸（けい）がんの細胞が子どもに移る現象を、

がん細胞を含む羊水を胎児が吸い込んだとみられ、子どもは肺にがんを発症しました。遺伝子検査の結果、母親の子宮頸がんが移ったものだと分かりました。新生児は免疫システムが未発達であることが理由かと思ひます。

# がんから守る「免疫監視機構」

の前提だと信じています。

さて、病気が患者から医師

に感染することはさほど珍しくありません。私は3万人近いがん患者の治療に携わってきましたが、患者の風邪やイ

ンフルエンザを「もらった」ことが何度かあります。

しかし、患者からがんをもらったことはありません。ある人のがんが別の人に移らない理由を考えてみましょう。

疫細胞にとっては異物と認識できなかつたわけです。

しかし、がんが別の人に移る例外的な事例もあります。母親の子宮頸（けい）がんの細胞が子どもに移る現象を、

臓器移植の際にも、ごくまれですが、ドナー側のがんがレシピエントに移ることがあります。これも、拒絶反応を防ぐための免疫抑制剤が使われることが背景にあります。

がんから私たちを守ってくれている免疫の仕組みに改めて感謝したいと思ひます。

（東京大学病院准教授）